

第47回東葛しぜん観察会

遊水地の冬鳥と斜面林

瀬谷 昭 (市川市)

日 時： 2009年2月1日（日）9時30分～12時20分

場 所： 万葉植物園～大野緑地～こざと公園～大柏川第一調節池緑地（市川市）

参加者： 一般 38名（内子ども1名） 指導員 23名

担当指導員： 瀬谷 昭 田島正子

前日までの雨があがり、冬の快晴の天気に恵まれたが、冬鳥の観察には強い風が吹き、いささか不向きであった。寒い中、予想以上の多くの参加者（ほとんどの方が観察会は初めて）があり、4班に分かれてコースなどの説明や安全注意の後、市川大野駅を出発した。

万葉植物園では、入口のソシンロウバイの黄色の満開の花の匂いを嗅ぎ、ロウバイとの違いを説明した。大きなヤブツバキの花の下から大野緑地の斜面林の上を歩き、植物園内のジャケツイバラや道沿いのハリギリやカラスザンショウなど針のある木を観察。カラスザンショウには、まだ実が付いており、メジロがついばむところを観察できた。また遠景のユーカリの大木やケヤキの樹形を楽しんだ。緑地の前半は落葉樹がそびえ、後半はスダジイ等の常緑樹が占めていた。緑地の最後では、ヒヨドリジョウゴが斜面から多数の赤い小実をぶらさげ、ムクロジのベージュ色の実もいくつか落ちていた。後ろに大柏小のモミをみながら、調整池である「こざと公園」に入った。ここでは、マガモやオナガガモなどのカモ類やバンなどの見分け方などの説明をした。こんな近くで観察できて良かったとの声もあった。

大柏川は前日の雨でゴミが流されてきれいになつておらず、カナダバイカモが水中にゆれ、コガモの飛翔やハクセキレイの舞を見ながら進んだ。カワセミも観察できた。2005年に完成した16haの大柏川第一調節池緑地では、「ぼっけ生きもの俱楽部」の大峠さんに緑地全般、伊藤さんに飛来する鳥などの説明をうけた後、俱楽部の人たちと一緒に冬鳥などの観察に入った。川からの越流堤の石段には、十数羽のアオサギとダイサギが日なたぼっこをしており、プロミナ観察で「うわっきれい！ 大きい！」などの歓声があがった。ここ以外では、緑地を半周したが、鳥は、風のためにヨシなどの枯草の中に入ってしまったようで、余り観察できなかつた。しかし、水中では、産まれたばかりのアカガエルの卵塊・カダヤシ・ウシガエルの仔と思われるオタマジャクシ・小さなヒキガエルなど、思つていた以上の生物が観察された。池の周囲にはカワヤナギなど 6 種の柳が生えており、その枝には、チョウセンカマキリなどの卵鞘（卵嚢）が多数産み付けられており、また、干からびたカエルやケラなどのモズのはやにえもく刺されているのを見つけることができた。

＜参加者の感想＞

- * 初めての参加でしたが、冬で風が強くても、よく歩けて楽しかつた。
- * 普段見ないところを見られて、よかつた。
- * アオサギが大きく見られ、アカガエルの卵も見られて嬉しかつた。
- * カモに多くの種類があるのが判つた。
- * 指導員によく教えていただいた。
- * モズのはやにえはよかつた。

